

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

だれもが災害をのりこえるために

～要配慮者の疑似体験を通して～



車いす体験
〈谷戸公民館玄関前スロープにて〉

体験者の声

段差は10cmほどで、スロープが設置されていましたが、1人で上がることができませんでした。無理に上がろうとしたら、後ろにひっくりかえりそうな気がしました。

体験者の声

ガイド者との距離が開いても、詰まっても歩きづらいので、歩調を合わせることに気を配りました。屋外では、周囲の音のせいで、ガイド者の声を聞き取れないこともありました。



アイマスク体験

〈谷戸公民館玄関前アプローチにて〉

ひともさまさま 配慮もさまさま

昨年の熊本地震で開設された避難所で生活した女性たちから、「カーテンで仕切られたスペースだと、下のほうから誰かの手が伸びてきそうで心配だったけれど、ダンボールの仕切りだと安心して眠れた」という声が聞かれました。このように、性別が異なるだけでも必要とする支援には違いがあり、ちよっとした配慮で、避難所生活の気苦勞は軽減されます。

相互に助けあう関係

公民館は、大地震の時などに帰宅困難者の一時滞在施設となります。そこで、編集室では防災アドバイザーの小野修平さん(※)の助言を得ながら、アイマスクの着用と車いすによる移動という疑似体験を通して、特別な配慮が必要な方たちはどんなことに困り、何を求めているのか知ろうと試みました。

の支援、一人で壁伝いで移動できる通路の確保が必要です。車いすを使用する人にも、自由に動ける幅の通路が必要です。

二つ目は、支援をする時は、コミュニケーションをとること。あたりまえのことですが、その人が支援を必要としているか、何をどのようにしてほしいか、本人に聞き、それに沿って支援することが大切です。

三つ目は、みんなで助けあっていること。人は一方的に援助されるだけの人はいないでしょう。避難所等は、みんなが「お互いさま」と気遣いあい、助けあって生活する場だと思えます。特別な配慮を必要とする人たちも、役割を担って、その場を運営する大切なメンバーです。助けられることもあれば、誰かを助けることもあるのです。

問われる町のフットリ

これらのことは、災害時だけでなく、日々の暮らしの中でもいえることです。

その人が必要とする配慮を理解する。そして、個として向きあう。個人として尊重し、コミュニケーションをとり、助けあう。そのように他者と向きあう日常の積み重ねがあつてこそ、非日常の困難な状況下で助けあうことができるのだと思います。

小野さんは、「誰もが暮らしやすいまちが災害にも強い」と語っています。

さて、今、わたしたちのまちは、誰もが暮らしやすいまちになっているのでしょうか。

※小野修平さん

公民館だより1月1日号の一面記事を執筆。記事をご覧になりたい方は、各公民館まで。

わが街をもっと知りたくて

NPO法人 まちかど保健室

喜田 貞さん



会の発起人で副会長の喜田貞さんは元養護教諭。心身に不調を訴える子どもたちを見守る一方で、子育てに悩む保護者の相談に応じていた喜田さんは、定年を前に「学校に保健室があるように、街中にも保健室があつて、お母さんたちが気軽に悩みを相談できたらいいな」と、思うようになりました。

そして、退職後の2005年に、出生から思春期までの子育てを支援するボランティアサークル「まちかど保健室」を42人の仲間とともに立ち上げました。その後2012年にはNPO法人となり、西東京市を中心に活動しています。

活動を支えるメンバーには、子育てにかかわる仕事をしてきたOBや現役が名を連ね、活動

写真で見る 保谷駅南口 いまむかし

保谷駅南口地区の再開発は、昭和50年代から市と地域の方たちとで取り組まれてきました。市施行の再開発事業は平成16年から具体的な取り組みが開始され、ステアビル、ソレイユ保谷ビルの完成に続いて、交通広場とペDESTリアンデッキが完成したことから、平成24年3月に完了しました。



保谷駅前 南側 昭和38(1963)年撮影
西東京市中央図書館 地域・行政資料室所蔵



現在の保谷駅南口
撮影: 牟田信幸(栄町在住)